

# 工水管でアイスピグ

# 横浜市水道局 初の実管路での施工

横浜市水道局は9月29

横浜市水道局は9月29日、JR横浜駅近くの工業用水管でアイスピゲ管内洗浄工法による洗管を行った。アイスピゲによると、実管路の洗浄は水道局

対象は35年前に布設された約300㍍のダクトタイル鉄管190㍍で、管内に堆積した夾雜物等の除去を図ったもの。アイスピグでの洗浄は約45分間、その後のフラッシ

A black and white photograph capturing a group of approximately ten construction workers in a work setting. They are all wearing hard hats and safety vests over their uniforms. The workers are positioned around a large, cylindrical concrete form or mold, which looks like it might be used for casting pipes or similar structures. In the foreground, one worker is clearly visible, holding a long wooden pole or a similar tool. The background shows what appears to be a construction site with various materials and equipment. The overall atmosphere is one of a busy industrial environment.

#### 注入前のアイスシャーベット

シングを含めても90分程度で完了した。

堆積が確認されていた。アイスレグ管内洗浄工法では、水と塙から作られる特殊アイスシャーベットを管内に注入してアイスピッケを形成し、夾雜物を取り込みながら内部

を洗浄する。水質面の川  
スクがない上、形状が変化するため口径変化や曲がり部・伏越し部に道筋し、閉塞の恐れもない。

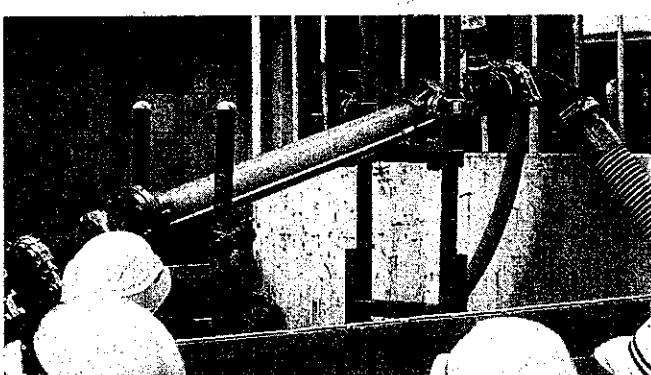
所屬する関東ヒノテサー  
ビス販売。アイスレーベンを  
形成する6・6立方尺の  
特殊アイスシャーベットは  
東京グラウト工業の浦  
安技術センターで用意  
し、2・2立方尺ずつ33

台のデリバリーユニットで運搬した。

創設期に整備された工事は、用水管では災難物の堆積が明らかになつております。今後も新たな手法での洗管を検討していく。  
工事を担当した水道課の職員は、「効率的な競争方法で工事」を担当した水道課の職員は、「



注入側のテリバリーユニット(上)、回収側のアクリル管(下)



特に昭和30～40年代の

台のアリバリー・ユニットで運搬した。

現場では、対象区間の後<sup>1</sup>の仕切弁を開じた上で、空氣弁から特殊アイスシャーベットを注入。管内で長さ約90cmのアイスピグを形成した後、上流側の仕切弁を開いて秒速20kgほどの水で押し流した。ドレン吐出口を利用した回収口にはアクリル管を接続し、視察に訪れた約30人の局職員が赤茶色に汚れたアイスピグを確認した。

創設期に整備された  
用水管では夾杂物の堆積  
が明らかになつており、  
今後も新たな手法での洗  
管を検討していく。  
工事を担当した水道局  
工業用水課の職員は、「  
効率的な洗浄方法で施  
工が早かつた」と話して  
いる。